

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 90 号

令和7年9月発行
(2025年)

編集者 磯山 直彦

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次	P.1	16期代議員等名簿/元正榮北日本水産株式会社災害支援への御礼	P.5
内藤新会長挨拶	P.2	準会員助成金の交付に係る活動内容	P.6
2025年度三水会定期総会報告	P.3	能登町での復興支援を振り返って	P.7
〃	P.4	お知らせ	P.8



北里三陸湧昇龍 よさこいご縁祭り

内藤新会長挨拶

内藤 文隆（8FA）

三水会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。2025年5月の三水会定期総会において会長を拝命いたしました水産学部水産増殖学科1983年卒業、8期生の内藤文隆です。よろしくお願い申し上げます。

前会長の高橋明義先生が昨年、学校法人北里研究所の副理事長に就任されました。理事長の浅利靖先生、学長の砂塚敏明先生はそれぞれ医学部、薬学部の同窓生でいらっしゃいます。なお、海洋生命



科学部同窓生からは朝日田卓先生が理事長特命補佐となっております。大学においては学部も新たに創設されています。相模原キャンパスの未来工学部に続いて昨年は新潟キャンパスに健康科学部が創設されました。これによって7学部から9学部へと学部数も増えることとなりました。獣医学部におきましては本年4月、グリーン環境創成科学科が相模原キャンパスに開設されました。相模原キャンパスも医学部の新校舎が竣工し、大きく進化しております。今年度には図書館も竣工を予定しているようです。ぜひ、三水会の会員の皆様も相模原キャンパスを訪ねてみてはいかがでしょうか。

一方、三陸キャンパスは震災で傷んだ老朽化した建物の解体が終わり、研究棟や体育館など数棟を残して、三陸臨海教育研究センターとして施設の運用を継続しております。特に1号館と呼ばれる以前は食堂と講義室のあったマリナーホールと呼ばれていた建物は大変きれいな見晴らしの良い宿泊施設となっております。我々卒業生は割引料金で宿泊可能なので活用してみたいかがでしょうか。私も一昨年、利用させていただきました。現在、無料で使える三陸道が整備され、宮古、遠野といった

観光地までも手軽に移動ができるようになっていました。三陸は溪流釣りが趣味の私にとっては今も聖地といってよいような場所です。なんとといっても三陸の渓流魚はきれいで釣り人にやさしいです。釣針を結ぶにも糸が見えず30分もかかってしまうほど衰えた私にもイワナとヤマメが機嫌よく顔を見せてくれました。卒業生の皆様もそして学生の皆様も友人同士であるいはご家族と一緒に旅してみたいかがでしょうか。注意事項としては近年各地で取りざたされておりますが、三陸もクマが多く生息しております。自然環境が豊かな証拠でもあります。事故のないようにご注意くださいと思います。

さて、三水会も会員数8400名を超える団体となりました。年齢の幅も年々広がっていく中で、今後は準会員も含めた若い会員の方々の協力なしでは会の運営をはじめ事業としてのイベントの活性化も難しくなっていくものと思っております。北里大学同窓会や支部同窓会とも連携して会員同士が親睦を深め、親睦の輪が広がっていくことを希望しております。特に学生である準会員の方々を三水会として支援をしていくとともに三水会の活動にご協力をいただ

き、幅広い世代のつながりを実現できることを強く願っております。近年、世界を見ても日本国内においても分断の時代になってきているように感じます。このような時こそ純粋に人と人とのつながりを大切にしていける親睦会というものの意味があるのではないかと思っております。親睦の輪を広げる機会をどのように作っていかばよいか皆様のお知恵をお借りしながらより楽しい会を実現できたいと思っております。

今後とも皆様方のご助言ご協力を賜り、卒業生の親睦の会として準会員を含めた会員のつながりの一助となるよう努めてまいりたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



「2025年度 三水会定期総会報告」

5月17日（土）、水産増殖学科9期の朝日田卓氏（館長）のご案内により、北里柴三郎記念博物館を観覧した後、午後3時20分から、北里大学白金キャンパス薬学部2号館2階2201講義室において、2025年度三水会定期総会が開催されました。

総会は代議員総数50名に対し、出席49名（本人出席41名、委任状提出8名）、欠席1名となりました。

冒頭、議長団の選出では議長に水産増殖学科17期の田中和義氏、続いて議事録署名人には水産食品学科5期の稲沢昌茂氏および水産食品学科6期の河村尚之氏が選出されました。

その後、議事に入り執行部から1号議案の2024年度事業報告および収支決算報告が行われ、続いて2号議案の監査報告が行われました。そして原案通り承認されました。

引き続き、3号議案の2025年度事業計画案および予算案の説明があり、原案通り承認されました。

次に4号議案の第16期役員（理事）の辞任に伴う後任候補者の推

薦および会長・副会長の人事について説明があり、原案通り承認されました。

定期総会終了後、同講義室において天野勝文学部長から、海洋生命科学部の近況等を紹介いただき、続いて準会員活動助成金交付者である海洋生命科学部の森陽香氏から、助成に係る活動内容の報告があり、内藤会長から記念品が贈呈されました。

その後、薬学部2号館1階学生食堂にて懇親会を開催し、久々に互いの交友を深めました。

「2024年度事業報告」

1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状および各種情報を含む会報を2024年9月と2025年3月の2回発行した。

2. 三水会ホームページの运营管理
会員に対し本会の各種情報を提供した。

3. 会員の現状の把握
全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努めた。

4. 親睦会の開催
九州・沖縄地区会員を主な対象とした親睦会を2025年2月8日（土）那覇市にて開催した。

5. 同期会等の助成
研究室同窓会や同期会等、卒業

財 産 目 録

2025年3月31日現在

*一般会計（円）

預金等					
みずほ銀行	三ツ境支店	普	1159267	444,850	
山梨中央銀行	小沼支店	普	214393	5,053,210	
みずほインベスターズ証券	新宿支店	MMF		609,067	
現 金				10,670	
合 計				6,117,797	

*特別会計（円）

(1) 事業積立金

みずほインベスターズ証券	新宿支店	MMF		1,000,000	
--------------	------	-----	--	-----------	--

(2) 大学助成金

ゆうちょ銀行	〇八八	088	普	15963761	151,261
--------	-----	-----	---	----------	---------

※一般会計「準会員活動助成」の対象とならない北里大学や準会員以外の団体等に対する助成を 目的とする積立金

監 査 報 告 書

三水会規約第18条に基づき、2024年度（自・2024年4月1日、至・2025年3月31日）提出された収支決算書の各事項について監査を行った結果、その内容は適当なものと認めます。

2025年4月7日

監事 西尾 徹

2025年4月10日

監事 材津 裕

2024年度収支決算書

2025年3月31日現在

支出の部			収入の部		
科 目	予算額	決算額	科 目	予算額	決算額
1. 事業費	4,450,000	3,591,162	1. 部会助成金	4,458,000	4,458,000
(1) 会報の発行費	2,700,000	2,741,082	2. 会報郵送料補助	875,000	875,000
(2) 三水会HPの運営費	200,000	123,000	3. 前年度繰越金	6,385,069	6,385,069
(3) 会員現況把握費	150,000	108,830	4. 預金利息	31	3,697
(4) 親睦会の開催費	400,000	200,000	5. 雑収入	10,000	10,000
(5) 同期会等助成費	200,000	104,000			
(6) 懇談会費	100,000	103,550			
(7) 準会員活動助成金	200,000	50,000			
(8) 就活ヒント開催費	250,000	110,700			
(9) 漁船海難遭児育英会寄付	50,000	50,000			
(10) 水産学部卒業30年集い検討会費	200,000	0			
2. 運営・管理費	2,400,000	2,022,807			
(1) 印刷・通信費	450,000	310,570			
(2) 会議費	700,000	663,802			
(3) 総会費	300,000	247,210			
(4) 事務局費	900,000	761,225			
(5) 慶弔費	50,000	40,000			
3. 予備費	4,878,100				
4. 次年度繰越金		6,117,797			
合 計	11,728,100	11,731,766	合 計	11,728,100	11,731,766

2025年度予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	4,550,000	1. 部会助成金	3,948,000
(1) 会報発行費	2,800,000	2. 会報郵送料補助	1,460,000
(2) 三水会HP運営費	200,000	3. 前年度繰越金	6,117,797
(3) 会員現況把握費	150,000	4. 預金利息	203
(4) 親睦会開催費	400,000	5. 雑収入	10,000
(5) 同期会等助成費	200,000		
(6) 懇談会費	100,000		
(7) 準会員活動助成金	200,000		
(8) 就活ヒント開催費	250,000		
(9) 漁船海難遺児育英会寄付	50,000		
(10) 水産学部卒後30年の集い検討会費	200,000		
2. 運営・管理費	2,500,000		
(1) 印刷・通信費	450,000		
(2) 会議費	700,000		
(3) 総会費	300,000		
(4) 事務局費	900,000		
(5) 慶弔費	150,000		
3. 予備費	4,486,000		
合計	11,536,000	合計	11,536,000

生の集会費用の一部について助成を行った。申請のあった4団体に對して、集会費用の一部を助成した。

6. 懇談会の開催

大学教職員との懇談会を5月10日(金)相模原市にて開催した。

7. 準会員活動助成

・準会員活動助成より、個人(1名)の活動費用の一部を助成した。

・クラブ助成より、北里三陸湧昇龍部の活動費用の一部を助成した。

8. 就職ガイダンス(就活ヒント)

の開催

各分野の卒業生を講師に迎え、海洋生命科学部在生を対象とした就職ガイダンスを10月17日(木)に開催した。今年度は受講生との交流会等は行わず粗品を呈した。

9. 漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている公益財団法人漁船海難遺児育英会に對し寄付をした。

10. 卒後30年の集い等検討委員会の開催

水産学部卒後30年の集いおよび

各種事業についての検討委員会の開催を見送った。

「2025年度事業計画」

1. 会報の発行

同窓生の動向、海洋生命科学部の現状および各種情報を含む会報を2025年9月と2026年3月の2回発行する。

2. 三水会ホームページの運営管理

会員に對し本会の各種情報を提供する。

3. 会員の現状の把握

全学同窓会と連携し、会員情報の正確性の向上に努める。

4. 親睦会の開催

各地区の会員を対象とした親睦会を開催する。

5. 同期会等の助成

研究室同窓会やクラブOB会等、卒業生の集会費用の一部を助成する。

6. 懇談会の開催

大学職員、在学生および卒業生等との懇談会を開催し意見交換を行う。

7. 準会員活動助成

準会員(個人もしくは団体)活動経費の一部を助成する。

8. 就活ヒント(就職ガイダンス)の開催

各分野の卒業生を講師に迎え、海洋生命科学部在生を対象に就

職ガイダンスを行う。

9. 漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に、学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に對し寄付を行う。

10. 水産学部卒後30年の集い等検討委員会の開催

水産学部卒後30年の集いおよび各種事業についての検討委員会を設置する。

2026年度に「卒後30年の集い(12期〜16期)および「全学同窓会公開講演会(主管:三水会)」を開催することとし、2025年度は準備委員会を発足する。



2025年度三水会定期総会

三水会第16期理事、監事、代議員および顧問（2025年5月17日～2027年5月）

理事（20名）

【会長】	内藤 文隆	8FA
【副会長】	越川 成二	12FA
【副会長】	北島 康弘	15FA
	長谷川一敏	3FA
	佐々木尊司	5FF
	藤田 伸治	7FF
	中野 清隆	10FA
	大坪 孝志	14FF
	加藤 茂基	15FF
	磯山 直彦	16FA
	増田 孝文	18FA
	高坂 友和	24FF
	高原陽子（小堺）	24FA
	重光 康宏	25FF
	安孫子 信吾	28FF
	松本典子（阿見彌）	29FM
	大池晴佳（柴田）	34FM
	川内絵美（渡辺）	36FM
	吉永 昌弘	37FB
	福士 洋隆	39FB

監事（2名）

	材津 裕	5FA
	西尾 徹	14FF

代議員（28名）

	佐藤 敏行	3FF
	鈴木 潤一	3FF
	藤森 年三	3FF
	水鳥 純雄	3FA
	石井美華（平井）	4FA
	奥村 誠一	5FA
	神取 政司	5FA
	高橋 明義	5FF
	稲沢 昌茂	5FF

	河村 尚之	6FF
	堀内 岳郎	6FF
	岡村 博登	6FF
	美野 朋隆	7FA
	柳澤明美（武田）	7FA
	朝日田 卓	9FA
	水石 博彦	10FA
	徳江 喜一	11FF
	源 裕次	13FF
	及川 善裕	14FF
	大場加奈子（渡邊）	15FF
	田中 和義	17FA
	小野 要	18FF
	加藤 紳	19FA
	北吉 直子	23FA
	澤田 一路	22FF
	川上由紀（小野塚）	24FA
	吉田 早紀	36FM
	山根 竜二	37FB

顧問

	伴 圭司	1FA
	大野 良樹	1FA
	長屋 信博	1FA

学部・学科・識別コード

〔水産学部（旧）〕		
水産増殖学科	1976年～2003年	FA
水産食品学科	1976年～2003年	FF
水産生物科学科	2004年～2013年	FM
〔海洋生命科学部〕		
海洋生命科学科	2012年～	FB



焼けた送水管

元正榮北日本水産株式会社
 災害支援への御礼
 元正榮 北日本水産株式会社
 代表取締役 古川 季宏
 （15FA 古川 末広）

令和7年2月に発生しました大船渡市の大規模山林火災により、私ども元正榮北日本水産株式会社が長年にわたり大切に育ててまいりましたあわび養殖施設は、甚大な被害を受けました。施設の一部は焼失し、丹精込めて育ててきた約250万個ものあわびがすべて失われるという、創業以来最大の未曾有の損害に見舞われました。東日本大震災を経て幾多の困難を乗り越えてきた私たちにとっては、この山林火災はまさに想像を絶する衝撃であり、長年積み重ね



被災で斃死したあわび稚貝

ねてきた努力や情熱が一瞬にして消え去ったことに、深い喪失感と無力感を抱かざるを得ませんでした。

この災害は、私たちに自然の脅威を改めて突きつけるものであり、今後も避けがたい厳しい現実として受け入れなければならぬことを痛感しております。しかしながら、こうした困難な状況の中でも、私たち社員一同は決して諦めることなく、むしろこの試練を乗り越えるために一丸となって再建への歩みを進めております。地域社会と共に歩み、地域に根ざした企業としての使命を胸に刻み、再び大船渡の海で質の高いあわびを育て、多くの皆様のもとにお届けできる日を目指して懸命に努力を続けていくところです。

また、被災後には思いがけず多くの方々から温かい励ましの言葉や支援をいただきましたことは、

私たちにとって何よりの励みであり、深く感謝申し上げます。特に、北里大学のOB有志の会をはじめ、同窓の先輩・後輩の皆様から賜ったご厚情は、私たちの苦境において大きな支えとなりました。共に学び、同じ志を持って歩んできた仲間たちの心からの応援は、どんな困難にも立ち向かう勇氣と力を与えてくれました。このことは私自身、改めて北里大学で培った「実学の精神」や「開拓の志」、そして困難を乗り越える強い気概がいかに重要であるかを実感させるものであり、今の私の大きな支えとなっております。

現在、復旧の用途は未だ明確に立っておらず、先行きは厳しい状況が続いておりますが、私たちは一歩一歩着実に復興に向けた努力を重ねてまいります。地元の皆様や関係者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、これからも全力を尽くして養殖施設の再建を進め、岩手の豊かな海の恵みである「さんりく翡翠あわび」を再び全国の皆様にお届けできるよう、精進してまいります。私たちの目標は、単に施設を復旧することにとどまらず、さらに高い品質と安全性を追求し、地域経済の発展にも寄与していくことにあります。

最後になりますが、このたびの

災害に際しまして、私たちに温かいご支援と励ましを賜りましたすべての皆様に、心より厚く御礼申し上げます。皆様からいただいたお力添えに因應るべく、今後も地域と共に歩み、より一層の品質向上と信頼回復に努めてまいります。どうか今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

準会員助成金の交付に係る活動内容

北里三陸湧昇龍 主将
金子 琉生

今年、私たちは助成金を受けて、よさこいご縁祭りに参加することができました。このお祭りは、私たちにとって非常に重要なものであり、毎年心待ちにしているイベントの一つです。助成金のおかげで、より多くのメンバーが参加でき、より充実した形でお祭りに関わることができました。この場を借りて、助成金の支援に感謝の意を表するとともに、秦野ご縁祭りに参加した意義や、その後の活動についてもご報告したいと思います。

よさこいご縁祭りは、毎年春と冬に神奈川県秦野市にある出雲大

社相模分祠参道境内で開催される地域のお祭りです。地域住民や各地のよさこいチームが一堂に会し、演舞やパフォーマンスが繰り広げられるこのお祭りは地域の文化を再確認し、参加者同士の絆を深める貴重な機会です。

私たち北里三陸湧昇龍にとって、この祭りは単なる一つのイベントではありません。毎年、私たちは各地で行われるお祭りに参加し、演舞や活動を通じて地域とのつながりを深めてきました。特に、秦野ご縁祭りはその年の演舞の納めとなるお祭りであり、その年の活動を総括し、翌年への糧を得る場でもあります。そのため、このお祭りには大きな意味があり、私たちにあっては欠かせない行事です。

しかし、私たちのような団体がこのようなお祭りに参加するためには、さまざまな準備や経費が必要で、衣装の調達や交通費、さらには参加費用や宣伝活動のための費用などがかかります。そのため、毎年参加するためには資金面での支援が欠かせません。参加費や交通費の負担が大きく、例年演舞の納めとなる重要なお祭りであるにもかかわらず、よさこいご縁祭りへの参加を断念せざるを得ない部員がたくさんいました。しか

し、今年は幸いにも助成金をいただくことができ、そのおかげで多くのメンバーが参加することができました。特に、助成金は参加にかかる費用をカバーし、私たちの活動がより多くの人々に届くようにするための大きな力となりました。多くの部員が参加することで、演舞のクオリティや迫力も増し、観客や地域住民の皆さんにも楽しんでいただけたと感じています。このように、助成金は単なる資金提供にとどまらず、活動の質を高め、地域とのつながりを深めるための重要な支えとなりました。

よさこいご縁祭りでは、私たちが日ごろの練習で培ってきた技術



よさこいご縁祭り

を披露し、地域の皆さんと交流を深めることができました。演舞を披露した際には、地域の方々からの温かい応援や拍手を受けることができ、参加したメンバー一人一人にとって大きな達成感と喜びを感じることができました。よさこいご縁祭りに参加したことは、私たちの活動の大きなステップとなりましたが、これにとどまらず、今後より多彩で迫力のある演舞を披露できるように努力を重ねていきます。さらに、地域にも貢献できるように活動を進めていきたいと考えています。

能登町での復興支援を振り返って

海洋生命科学部 森陽香

2024年11月23・24日、私は令和6年能登半島地震と令和6年奥能登豪雨で被災した能登町にて支援活動を行いました。

災害ボランティアへ関心を抱いたのは、小学2年生の頃に発生した東日本大震災がきっかけです。被災地の力になりたいと、ボランティアの選考を受けたものの不合格となり、私にできたのは数百円の募金だけでした。その無力感に心に深く残り続けていました。

それから十数年が経過し、今回支援活動に参加できる機会を得たことで、迷わず参加を決意しました。しかし、往路で飛行機から能登の景色を眺めた際、この地域に広がる現実を想像し、胸が締めつけられるような感覚に襲われました。

初日には、土砂崩れによる被害を受けたお寺の裏山で土砂かき作業を行いました。クラッシュャーで石を砕き撤去したり、草木や土砂を土嚢袋に詰めて運搬したりするという力仕事を中心でした。10人以上の大人が揃っていても、作業は予想以上に進みませんでした。コミュニケーションを取りながら作業を進めた結果、肉体的な疲労を感じる瞬間はあったものの、精神的な負担はなく、仲間と共に取り組むことの意義と心強さを実感しました。

作業後には能登町役場の復興推進課の方から、地域の現状や課題



土砂かき作業中

について直接お話を伺いました。報道だけでは知り得ないリアルな声に触れ、「被災地」と一括りにされがちな現場の複雑で多様な現実を知りました。夜には仲間たちと将来について語り合い、新たな視点や価値観を得る機会となりました。

2日目には奥能登の冬支度である「雪囲い作業」を行いました。これは、積雪による被害を防ぐために、木材とプラスチック板で家を囲う作業であり、暮らしの知恵が詰まっていました。また、山麓に家を建てることで田んぼの面積を広く確保してきたということも知り、土地に根ざした工夫と文化を学ぶこともできました。地域と人との関係性を学んだ、濃密な時間となりました。

帰宅後の11月26日、能登で震度5弱の地震が発生しました。「自分が能登から関東へ帰って来ただけで、能登に住む人々は今日も能登にいて、そこに日常があり、生活がある。能登は今日も変わらず能登であり続けている。」という、そのごく当たり前の事実を実感しました。思い浮かぶ人々、風景、会話——大丈夫だろうか、無事だろうかと思う人や土地の存在、それにより能登を自分ごととして捉えるように変化した自分に気づ

きました。同時に、これまでの自分がいかに能登半島の被災を他人事として考えていたかを思い知らされました。

この活動を通して強く感じたのは、自分はまだ何も力にもなれていないということでした。また、たとえ目に映る街の様子が元通りになったとしても、被災された方々の心が癒えるとは限らないという現実。すなわち物理的な復旧・復興と、人々の内面的な回復は必ずしも一致しないということを実感しました。

今回活動を行うことができたのは、私たちを受け入れてくださった能登の皆さま、共に活動した方々、そして助成金という形でご支援くださった三水会の皆さまのおかげです。私が能登町の再生に直接貢献できた部分はごくわずかかもしれませんが、現地での経験を言葉にして伝えていくことも、能登の一助となると信じています。



雪囲い

“ 掲 示 板 ”

■ 北里大学 路の会（アウトドア部）の50周年記念会

- ・開催日：2025年11月15日（土） 16～19時（15時30分開場）
- ・会 場：小田急ホテル・センチュリーサザンタワー（新宿駅南口から徒歩3分）
- ・会 費：15,000円
- ・申 込：<http://www.pagemaker1985.com/kitasato.html>

■ 北里大学海洋生命科学部同窓会 三水会 会員登録データの変更・追加フォーム

ご卒業生の皆様の会員登録データは、今までメール・電話でお知らせいただいていたのですが、以下のフォームから変更・追加がご自身で行えます。

項目を入力し、送信下さい。

なお、当該フォームは株式会社フューチャースピリッツの「フォームメーカー」というサービスを利用しています。

- ・会員登録データの変更・追加フォーム

<https://business.form-mailer.jp/fms/559c3b1b254834>



■ 同期会、クラブOB会、研究室同窓会等、集会を開催予定の方へ

三水会では正会員の同期会、クラブOB会、研究室の同窓会等を開催される場合、下記の助成を行います。

【会員管理システム利用申請書】を事前に提出すると、審査の結果、名簿の一覧やDMラベルの提供が受けられます。（DMラベルは一部有料の場合があります。）

【三水会同期会等助成金申請書】を事後に提出すると、一団体100,000円を上限に、10名以上の集会に対し会員1名あたり1,000円の助成が受けられます。（交付は審査の上、1団体・年度内1回までの利用とする。）

同期会、OB会等の集会情報は、三水会会報や三水会HPに告知掲載することができます。（申し込み等、詳細につきましては三水会事務局までお問い合わせください。）

助成金の交付を受けた団体等は、交付後活動内容を三水会会報に寄稿するものとする。

詳細等、申込みにつきましては事前に下記、三水会事務局までご通知ください。

- ・E-mail：information@kitasato-sansuikai.jp
- ・TEL：0120-873-135

■ 年会費納入のお願い

北里大学同窓会は、会員の皆様の会費収入で運営されています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。卒業10年後（11年目）から年会費制度が実施されています。

年会費納入の方は、北里大学同窓会会報に同封の振込用紙、または下記まで納入下さいますようお願い致します。（必ず会員番号とお名前を明記してください）※会員番号が不明な方は卒業年・学部を、または同窓会事務局までお問い合わせください。

口座番号（ゆうちょ銀行）00100-8-574703

他の金融機関からお振込の場合 銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 預金種目：当座 店名：〇一九店（ゼロイチキユウ店）口座番号：0574703

加入者名：北里大学同窓会年会費口 振込金額 1年分5,000円 5年分20,000円

編集後記

三水会会報（北里大学海洋生命科学部同窓会会報）は、昭和55年10月25日発行の創刊号から数えて、今回で第90号となりました。

創刊号は、水産学部同窓会として発行され編集者は田代茂年氏で、その後、大野良樹氏、川添一郎氏、そして現会長の内藤文隆氏へと受け継がれ、途切れなく発行してきました。

三水会の会員数は8400名を超える団体となり、年齢層も年々幅広くなっておりますので、より会員同士の親睦を深め、親睦の輪が広がってゆくことを願って、これまでの会報を継承するとともに、より読みやすく、迅速な情報発信を果たすようにいたします。